

印刷業から農業に進出

ビジネス 交差点

レアドーク

(中野市)

信州経済

印刷業のレアドーク(中野市)が、農業に参入した。東京電力福島第一原発事故後、食の安全・安心に消費者の関心が高まったことに着目。微生物の働きで付加価値の高い農産物を作ろうと今春、契約農家を募って栽培に着手した。

同社は1993年設立。市町村の例規集のデータ作成などを手掛け、学習塾も運営している。本業の印刷業は出版不況で伸び悩んでおり、さらに新事業を模索。土の中の微生物「らん藻」を増殖させ、栄養価の高い農産物を作る「ピロール農法」に目を付けた。

微生物で高栄養の農産物

同農法を展開するエルゴン(福井県越前市)から、生石灰や窒素、リン酸、カリなどを配合した専用資材を仕入れ、契約農家に販売。田畑にまくと、らん藻が増

殖し、光合成で酸素をつくることで作物の根の成長が促され、養分を吸収しやすくなる。ことし3月に下高井郡木島平村や飯山市で契約農家

を募る説明会を開催。両市村を含む5市町村の農家約30戸が応じ、4月上旬から栽培を始めた。コマや野菜、果樹を栽培し、収穫した一部を買い取って首都圏の小



レアドークが契約農家に販売する専用資材

売店や料理店などに販売する予定だ。1袋(20kg)当たり3400~36000円の資材販売と農産物販売を合わせ、初年度は農業関連で計500万円の売り上げを目標に掲げている。

レアドークは従業員数19人。2012年11月期の売上高は約5500万円。酒井淳一社長(53)は「国内の農業を絶やさないためにも、今後は農業を中心に事業展開したい」とし、県全域に契約農家を増やしていく方針だ。

信州
経済